

関係人口と連携・協働した地域づくり



ソーシャル&エコ・マガジン 関係人口とひらく地域の未来! 「新・関係人口」の大特集!

ソトコト

大好評!

ソトコトOnline

sotokoto-online.jp



アクセスは
こちらから ▶



ソトコト編集部(〒250-0295 静岡県静岡市清水区藤原1-1-1) | 2020年3月15日発行(毎月15日発行)

Mo. 250
April 2020
SOTOKOTO

1019YEN

観光以上、移住未済!

新・関係人口

人門

関係人口

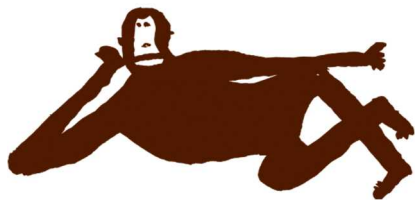
3万人アンケート
公開!

New connected mind!



オンライン化した 『しまコトDIGITAL』

ゴミ、捨てんなよ!





しまコトアカデミーDIGITAL講座

この講座について

講座概要・応募フォーム

事前説明会について





コロナ受け「しまコトアカデミー」

デジタルで全国開講



オンラインでの説明会で「しまコトアカデミー」への参加を呼び掛ける関係者

都会地などで暮らし、島根県に興味を持つ人の学びの場となる講座「しまコトアカデミー」が本年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初めてのオンライン開催に踏み切る。会場に行かずとも全国から参加が可能に

なる。新型コロナで大都市一極集中のリスクが浮き彫りになる中、地方へ人の流れを生み出す新たな切り口につなげていく。

(白築昂)

しまコトアカデミーは、島根県とシンクタンク・シース総合政策研究所(松江市)、ライフスタイルや環境問題を発信する雑誌「ソトコト」の3者による運営で2012年から開始。移住・定住を最終目的とせず、受講者に「自分なりの地域との関わり方」を考えてもらうのが特徴で、座学▽内を訪問するインターンシップ(就業体験)が得意なため、町おこしなどで活躍する「ローカルプレンヤー」を招いた交流会を開く。

このほどあった説明会では、メイン講師を務める「ソトコト」編集長の指出一正さんが「島根の『らしさ』は変わらない。そこに面白さを感じ

「島根らしさ」変わらない

県内でのインターンシップ(就業体験)▽プラン作成を経て実践につなげる。

東京、関西、広島、島根の4地域を軸に開催し、これまでに約170人が受講。受講者が島根県内にU・Iターンして起業につながった例も多い。

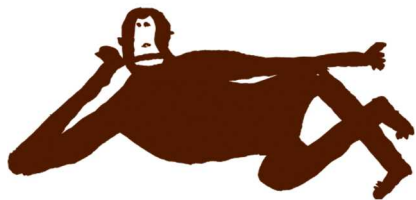
本年度は8月2日から11月7日まで全7回実施し、全てオンラインで座学や意見交換を行う。県

7月14日まで募集し、選考を行った上で20日まで結果を通知する。

w.shimakoto.com




和歌山県田辺市の 『たなコトアカデミー』

ゴミ、捨てんなよ!



ロゴ案

美味しい田辺のもの、あたたかいひとで誘いたいという思いから
今回の販売物をロゴに取り入れ、可愛く柔らかい印象にしました。

お  い で ら よ 
い  ら よ



店内禁煙
この店では喫煙ができません。
No Smoking Inside
This cafe is a non-smoking area.
禁煙エリアです。喫煙はできません。



紀伊民報

発行所◎ 紀伊民報社
和歌山県田辺市秋津町
100番地 〒646-8660
電話-0739-(22)7171(代)
営業FAX-0739-(26)0077
編集FAX-0739-(25)3094
振替口座-00830-2-21977
和歌山支局
電話073-(428)7171
串本支局
電話0735-(62)7171
新宮通信部
電話0735-(31)7174

南紀白浜
不動産の
情報
満載!
DAIKYO 白浜町3781-12
大協不動産
TEL.0739-42-3574
http://www.daikyo.tv

「関係人口」創出へ

田辺市 首都圏で養成講座

人口減少が進む田辺市は、地域と継続的に関わる「関係人口」づくりにより出ている。首都圏で「養成講座」を開いているほか、来年度は都市部の若者を対象に地域でのインターシブ(就業体験)なども検討している。



田辺市の魅力の伝え方を議論する関係人口養成講座の受講生(東京都)

関係人口は観光で来る「交流人口」と実際に移住する「定住人口」の中間の概念。すでに移住は難しいけれど、地方と関わりを持ちたいという都市部の若年層が増えている。市はこうした地域外の人材と地域住民を結び付け、人口が減少しても持続可能な地域をつくる狙いがある。

そこで、市は昨年11月から首都圏在住者を対象にした「関係人口養成講座」を試行的にスタートさせた。平均31・6歳の15人が受講。地域で活躍している農家らと交流してもらい、4回の講座を通じて段階的に関わりを深める。これまでに2回開催した。受講生は講座最終回の2月

17日に東京・渋谷の国連大学前で毎週開催されている「フーマーズマーケット」で、田辺の農産物やシビエを販売する。現在、田辺の魅力をいかに伝えるか、講座以外でも受講生同士で議論を深めている。

企業倒産は低水準

18年、県内で80件

東商工リサーチ和歌山支店は、2018年の県内企業の倒産状況(負債額1千万円以上)をまとめた。件数は80件で過去10年間で2番目に少なかった。負債総額も低水準だったが、3年ぶりに100億円を超えた。件数は前年より3件多かった。過去10年間でみると、2009年が最多の169件で、その後減少し、13年に90件台に収まった。最少は17年の77件だが、13年以降は100件を割った状態が続いている。月別では3月の12件が最多で、他の月は1桁台だった。負債総額は143億4800万円、前年より82億4700万円多かったが、過去10年間でみると3番目に少なかった。1億円以上の倒産は13社。年間を通し、企業体力の弱い中小零細企業の倒産が主流となった。

紀南に生きる

熊野本宮大社の旧社地、大森(おおのほの)から徒歩1分の場所です。くまの(こまの)を運営する。同じ関西大学出身の仲間と4人で昨年5月に立ち上げた。「地元の人にも観光客も、いろんな人が集う場にした」と意気込む。

熊野ファンの共同体を

本宮町で活動したいと話す。賛同する仲間が集まりました。本宮町には何をやるかも決まらずに飛び込んだ。食堂を始めた。屋もなく、地域の社交場にもなる。のほ「観光客向けの宿泊施設は増えているのに、夜、食事をする場所がない」という地域課題を解消するため。周囲には居酒屋シビエ、果無酢の湧き水、平飼いで育てた鶏の卵などを使用。めはりすしやシビエ料理など、地元の「名人」に教わった調理法を提供している。

食堂の恵み。

ポットを巡るが、発信するメディア

ひっそり開花
ミカンアオイ



中献血

17日(田辺市)午前9時〜11時半、高雄1丁目、市民総合センター▽午後1時〜4時半、新庄町、紀南病院

- 3面 「子どもふるさと絵画展」 特選作品の紹介
- 8面 「書き損じハガキ募集」
- 9面 「スマホで土産物直送」



おいでらよ
いこらよ

三宅柑

はろけ
1,200円

津の柑

紅皮
1,200円

トロっ子
1,200円

おろし
3
600円

よりどり
4
600円

ポンカン
1,200円

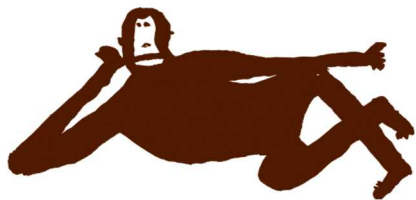
ブロッコリー

おろし
3
600円

よりどり
4
600円

『かかみがはら暮らし委員会』
が願うもの。

ゴミ、捨てんなよ!





長縄尚史さん
「かみがはら暮らし委員会」
代表理事



上/「学びの森」でつづく長縄さん。右下/各務原市役所が発行する広報誌「OUR FAVORITE KAKAMIGAHARA」。左下/岐阜大学農学部の農場跡地を整備した「学びの森」。

岐阜県各務原市。大きくて明るい公園に、素敵なメンバーが集まりました！

知られていなかった公園を、人が集まる交流の場に。

岐阜県各務原市にある市民公園「学びの森」の周辺で年に1回、「マーケット日和」という市主催のイベントが開かれている。飲食や雑貨など数多くの店舗が軒を連ね、約4万人もの来場者が訪れる各務原の人気イベントだ。

企画・運営に携わっている「かみがはら暮らし委員会」代表理事の長縄尚史さんは、11月に開催された第6回の「マーケット日和」を無事に終え、安堵の溜め息をついていた。

2013年から始まった「マーケット日和」は第2回の開催を前に、「民間のアイデアやノウハウを活用したい」と市が企画運営委員を募り、美容室を営む長縄さんに依頼。以前に音楽イベントを開いたり、地域発信型映画に関わった経験を買われたようだ。長縄さ

んはライフスタイルショップ「長月」を営む尾岡加奈子さんを誘い、同様に依頼された岐阜市・柳ヶ瀬商店街の飲食店「ティダティ」の水野陽子さんと夫の水野幸仁さんと合流。さらに、岐阜市のデザイン会社「リトルクリエイティブセンター」代表の今尾真也さんを加えた5人が実行委員会に入り、企画運営を担当することになった。

ただ、会場の「学びの森」は、市民に広く知られた公園ではなかった。「マーケット日和」の開催日だけでなく、日常的に園に人が集まるようにと長縄さんらは公園の隅に佇むガラス張りの建物に目をつけ、その活用方法を市に提案。公募によって選出されると建物の内装をリノベーションし、「KAKAMIGAHARA STAND」という交流・発信拠点となるカフェ&スペースをオープンさせた。

その運営のために「かみがはら暮らし委員会」を設立し、先の5人が理事に就いた。「KAKAMIGAHARA STAND」が評判となり、「マーケット日和」も回を重ねるなかで、「学びの森」は「おもしろな場所」として市民に親しまれ、人が集まる場になっていった。「散歩をする人、犬と遊ぶ人、テントを張ってつるろく人、以前はこういう風景はありませんでした。気持ちいいです！」と、長縄さんは生に腰を下ろし、変わってきた公園の姿を見渡した。



公園、好き！

岐阜県各務原市を舞台に、まちを楽しむ人を増やす活動を展開する「かみがはら暮らし委員会」に関わる人たち。

まちを楽しむきっかけをデザイン。

『かみがはら暮らし委員会』が願うもの。

美容師、ライフスタイルショップ店主、飲食店店主、工務店社長の4人の理事と、その理念に共感する委員が現在40人ほど、さらに、活動に関わったり、参加する人は数え切れないほど大勢！

「かみがはら暮らし委員会」は日常と非日常をデザインし、まちを楽しむ人を増やしています。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

「かみがはら暮らし委員会」代表理事・長縄尚史さんに聞きました。

Question▶地域のデザインで大切にしていることは？ Answer▶何ともあれ、人です。

ハードだけではなくソフト、つまり人がいてこそデザインが生まれます。そこに暮らし人々のキャラや得意分野を大切にしながら地域をデザインしたいです。



●11月に開催された「マーケット日和」で、芝生にテントを張ってつくる会場も。●長編さん肝いりの企画「森のお食事会」。木の下でランチを味わう。●「森の音楽隊」の手廻しオルガンを女の子が演奏。●料理、パン、ワイン、紅茶、お菓子、食器、テーブルなど若手職人がコラボした「森のお食事会」。

公共空間を有効に使ったイベント「マーケット日和」の魅力を知られ、人が集まる光景が日常に！



「かみかみはら暮らし委員会」代表理事・長岡尚史さんに聞きました。
Question▶これまで影響を受けたデザインは？ **Answer**▶漫画の「キングダム」です。

主人公・信だけの物語ではなく、登場人物それぞれに考え方や生き方、美学があり、それがクロスシな世界の未来がつられていく、つまり、生き様もデザインもささまである意味で影響を受けました。



●市から建物を借りて運営しているカフェスペース「KAKAMIGIHARA STAND」。家賃は管理費を含めて月に5万円ほど。●イベントや展覧会を行えるスペースも備わっている。●明るくナチュラルな雰囲気のある店内。●人気のサンドイッチ。●長編さんが運営する「かみかみ食堂」。●マーケット日曜日は、東白川村のお茶と各務原市の和菓子店のコラボで「かみかみ食堂」内に喫茶店がオープン。3種の茶葉を、3種の淹れ方で、3種のお菓子と楽しんだ。

ひとりひとりが
 出会い、まちを思い、
 遊ぶコミュニティが広がっていきます。

「寄り合い」から生まれる、ユニークなコミュニティ。
 「KAKAMIGIHARA STAND」はカフェであり、人が交流し、まちの魅力を発信する拠点でもある。「かみかみはら暮らし委員会」が月に1回開催するイベント「寄り合い」もその一つだ。「テーマもゴールも決めず、誰が来て、何を話してもいいオープンな場、その日集まった人たちが話したいことを話し合います」と説明するのは、最近まで「かみかみはら暮らし委員会」の事務局を担当していた高野さん。「みんなの意見を聞きたい話をしに来る人がいたり、移住者が友達を見つげに来たり、店を始めた人がつながりを求めて来たり。フアシリテーターの僕でさえ予測不能な方向へ展開するのが「寄り合い」のおもしろいところ。多様な価値観が表出する場です」「寄り合い」をきっかけに、さまざまな人が「KAKAMIGIHARA STAND」に集まるようになった。互いの共通項を見つけた人同士がより親密なコミュニティをつくることもある。「部活動」も



右・上・右下/41人の部員が所属するカメラ部。写真展も開催し、「写真展です」でフェイダーを覗かずに撮った写真の展覧会は好評だった。左・上/毎月第1水曜19時半から開催される「寄り合い」。2017年から30回以上開かれ、交流のきっかけを生んできた。

の一つ。今はカメラ部、SAKE部、からだ部、読書部、こーヒー部、銭湯部、カルソング部があり、年齢も肩書も異なる人たちが楽しく活動している。また、「Pin」という新しい団体もこの「寄り合い」をきっかけに生まれた。各務原の人や、場所を発掘し、そこにPinを打つように新しい価値を生み出そうと活動を始めた。さらに、戸高さんが預かった迷い猫を、「かみかみはら暮らし委員会」に関わる人たち12人が親となり、お金の愛情を出し合って一緒に育てるといふ変わったコミュニティも生まれているように、「KAKAMIGIHARA STAND」を拠点にした人々の、ユニークな交流が広がっている。

MEMBER INTRODUCTIONS

『かかみがはら暮らし委員会』の仲間たち!

イベントなどの活動情報をSNSで発信!



尾関加奈子さん

ライフスタイルショップ「長月」店主で、理事。主にSNSを使って「マーケット日和」や「KAKAMIGAHARA STAND」のイベントの発信を担当している広報部長的存在。

事務局を辞め、今はフリーの立場で関わっています!



戸高 賢さん

大学卒業後に「かかみがはら暮らし委員会」に就職し2年半、事務局を担当。共同財布アプリ「Gojo」で12人の飼い主から「養育費」を集め、「そば」という名の猫も育てている。

カメラ部を立ち上げ、イベントを行っています!



高田沙織さん

カメラマンで、委員。「寄り合い」で仲よくなったカメラ好きの参加者とともに、部活動第1号となるカメラ部をつくった。「カメラ散歩」したり、写真展を開いたり。楽しいです!。



100パーセント岐阜県産小麦粉の蒸しパンをどうぞ!

清水弥生さん

「KAKAMIGAHARA STAND」店主で、委員。水野陽子さんオリジナルの蒸しパンをアレンジして店舗のキッチンで作り、販売。これまでに100種類以上も販売してきた。



「羊びの森」にあるカフェのメニューを考えました!

水野陽子さん

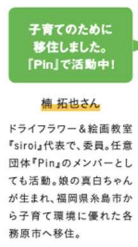
飲食店「テイクテイク」店主で、理事。「羊びの森」にある「KAKAMIGAHARA STAND」のメニューをディレクション。東京にオープンしたカフェ「岐阜ホール」のメニューも監修。



愛着のある「羊びの森」を素敵に公園に!

長縄尚史さん

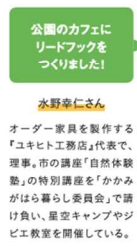
「hairmake duca」店主で、代表理事。その人らしい髪型にしようと思いを切るのと同時に、どうすれば「羊びの森」らしい公園になるかを考えながら、イベントなどを企画している。



子育てのために移住しました。「Pin」で活動中!

棚 拓也さん

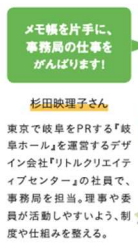
ドライフラワー&絵画教室「siro」代表で、委員。任意団体「Pin」のメンバーとしても活動。娘の真白ちゃんが生まれ、福岡県糸島市から子育て環境に優れた各務原市へ移住。



公園のカフェにリードフックをつくりました!

水野 賢さん

オーダー家具を製作する「ユキヒト工務店」代表で、理事。市の講座「自然体験塾」の特別講師を「かかみがはら暮らし委員会」で請け負い、星空キャンプやジビエ教室を開催している。



メモ帳を片手に、事務局の仕事ががんばります!

杉田 理子さん

東京で岐阜をPRする「岐阜ホール」を運営するデザイン会社「リトルクリエイティブセンター」の社員で、事務局を担当。理事や委員が活動しやすいよう、制度や仕組みを整える。



お客さんも「委員会」の皆さんも温かい方ばかり!

水野すみれさん

「KAKAMIGAHARA STAND」店員で、委員。水野さん夫妻の娘。今年から「マーケット日和」の運営委員も担当。おすすめドリンクは、人気ナンバー1のワン黒糖ほうじ茶ミルク。



コーヒーが大好き。「Pin」のイベントでも出店!

横山裕一さん

大学3年生で、任意団体「Pin」のメンバー。大学を休学し、オーストラリアで1年間修業して学んだコーヒーの知識と技術を生かし、コーヒーショップを経営するのが将来の夢。



トマト農家です。「Pin」の活動で各務原の魅力を発信!

橋本 涼さん

「はしもと農園」代表取締役で、委員。任意団体「Pin」のメンバーとして、12月には「クリスマスマーケット」を開催。農園を設立した経緯を生かし、起業塾を開催したいと考える。



「マーケット日和」の当日、「かかみがはら暮らし委員会」に関わる人たちが集まってくれた。皆さん、ナイス笑顔!

公民連携の相乗効果で、まちを楽しく人が増える!

「マーケット日和」は、各務原市との公民連携によるイベントだ。企画・運営、プロモーション、デザインなどは基本的に「かかみがはら暮らし委員会」が、会場の使用許可や警備、事務作業などは市が担っている。互いに行き違えることがない、共有の価値がある。互いに行き違えることがない、共有の価値がある。

観を持って進めています」と長縄さんは言う。尾関さんは、「まちや公園が楽しくなればと毎回、新たな要素や委員会のカラーを加えながら企画運営しています。予算を持つ市としては、「マーケット日和」を開いている魅力的なまちという見方で各務原を発信したいので、そんな公民の相乗効果を生み出している気がします」と話す。水野 賢さんも、「そう言えば

最近、各務原に移住しようかという人の話をよく耳にするようになりました。もちろん「マーケット日和」だけが移住の要因ではないでしょうけど」と顔で話す。「マーケット日和や「KAKAMIGAHARA STAND」が成功した理由の一つに、長縄さんは「かかみがはら暮らし委員会の理事が店主の経営者であることを挙げる。「発信方法や見せ方も含めて、常に来場者やお客さんありきで物事を考えている。だから、喜ばれるのだと思います。ただ、水野陽子さんは、「すべての作業がボランティア。持続的な運営のためにも、少しでも報酬をいただければという気持ちもあります」と本音を語る。一方、こんな成果も見られた。18年の「マーケット日和」から出店者には2店舗以上のコラボレーション出店を義務づけているが、「そうすると、応募の前段階から、



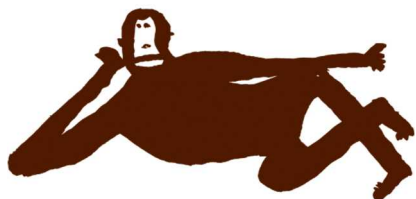
まちを楽しく人を増やしたい!

「かかみがはら暮らし委員会」代表理事・長縄尚史さんに聞きました。

Question ▶ 私たちの地域に來たら、ここもおすすめ! Answer ▶ 「カトキフ」で! ▶ 加藤俊輔さんの茶畑工と、加藤美佐さんの料理が楽しめる雑貨店&カフェ。ご夫婦の世界観や人間性、料理と店の雰囲気、それらのバランスと委員会が独特で好きです。

多様な価値観が集まる 「ナカイチ」

ゴミ、捨てんなよ!



飲食店「シェアオフィス」や「ヴァンポ」は新幹線沿線の人気スポット。また、博多市には「ナカイチ」や「ホーホウ」などの入居者、市の施設などを集める「ナカイチ」



「ナカイチ」は、博多南駅前ビルのお愛称です！



ガラス張りのビルが「ナカイチ」。写真左の「JR博多南駅」の看板を奥に奥むと新幹線が停車する駅がある。

新幹線のやって来る博多南駅。

福岡県那珂川市の楽しい玄関。

多様な価値観が集まる「ナカイチ」。

2018年3月にリニューアルオープンした「博多南駅前ビル」、愛称は「ナカイチ」。2年が経とうとする今、何を一番大切にしたい場づくりを心がけているのか？ 運営に携わる「ホーホウ」の三人に聞きました。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

住民のニーズを探りながら、リニューアルオープン！

福岡県福岡市近郊の「ベッドタウン」、那珂川市。博多駅と博多南駅を結ぶJR線が市民の通勤・通学の足となっているが、新幹線車両が在来線として走っていることに驚く。元々は博多で営業を終えた新幹線を那珂川市にある車両基地に運ぶ回送線だったが、住民の要望に応じて駅を設け、一部車両は在来線特急として運行しているという珍しい路線だ。

その博多南駅の駅前に、市所有の4階建てのビルが立っている。博多南駅前ビルだ。また那珂川市が町だった2004年にできたビルで、今は「ナカイチ」という愛称で親しまれているものの、長い間、利用者が少ない状態が続き、町民が離れてしまった時期もあった。

そこで、旧・那珂川町は18年10月に市になるにあたってビルのリニューアルを決定。「ことば那珂川」という事業名で3年間、社会実験的なイベントを重ね、住民のニーズを探り、リニューアル空間を設計。地域づくりに関心を持つプレイヤーを募りながら、18年3月にリニューアルオープンした。「ことば那珂川」は、宮崎県日南市の油津商店街再生事業で手腕を発揮した木藤亮太さんと、リニューアル事業開始当初から関わっている坂口麻衣子さん、一市民として活動に参画してきた森重裕倫さんが立ち上げた「ホーホウ」が運営を引き継ぎ、カフェやレンタルスペース、ワークスペースなどの事業を展開している。今、「ナカイチ」には、どんなふうの人が集まっているのか？

新幹線に乗って訪ねてみた。

博多南駅に停車中の新幹線車両。世界最速の時速300キロ以上で走っていた500系電車も運行。博多駅との片道約8.5キロを8分程度、300円で走る。



3F

シェアオフィス、学習スペース、インターネットラジオの収録も!

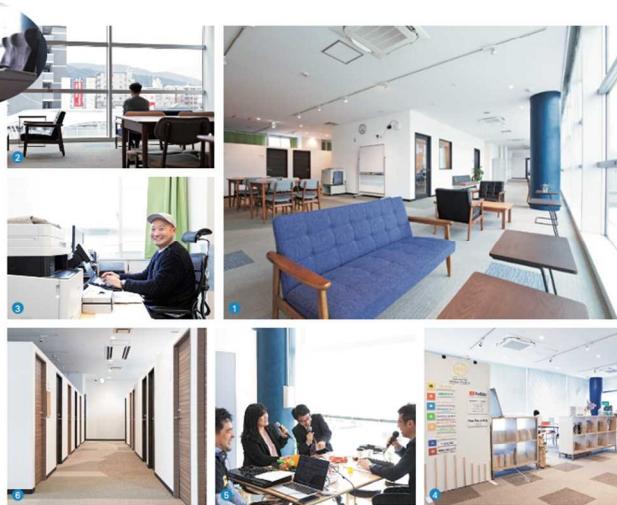
ワークフロア

WORK FLOOR

オフィスのほか、共用スペースやWi-Fi、ロッカー、郵便受けなどが利用でき、最小ブースは1万6000円で借りることができるシェアオフィス「博多南しごと荘」。福岡市から那珂川市南畑地区に家族で移住してきた田口浩さんはその一室を借り、Web制作や野菜や食品の卸・小売を行う会社「JUSTA」を経営している。「那珂川市は人口も増えて発展していますが、中山間地域の南畑地区は人口が減少しています。南畑の新たな価値の発信のために仕事でもプライベートでも積極的に関わっていかねたらと、事務所を移転してきました」と、新たな仕事や暮らしを楽しんでいる。

ホーホウ's eye

2階の「cafe Ruru」と3階の広場のソファで定点観測。「ナカイチ」を訪れる人が何を話し、どんな行動をしているか、プロデューサーとして観察しています。



①静かなシェアオフィス。②窓からはまちの風景が。③「JUSTA」の田口さん。④今年3月までは学習スペースも併設。⑤インターネットラジオ「ナカイチレディオンジケート(NRS)」の収録も。10番組あり、この日は那珂川市商工会のメンバーによる「駅セントリック!ナカガワ」を収録。⑥全15室あるシェアオフィス。

1F

バスの待合室、インフォメーション・コーナーやギャラリーも!

ターミナルフロア

TERMINAL FLOOR

1階は路線バスや、那珂川市や隣接する春日市を走るコミュニティバスの待合室。常に人々が行き交っている。リニューアル前から営業する洋服店とうどん屋も人気だ。駅に直結した便利な保育園もあり、園児たちが2階の公園で遊んでいる姿も見られ、微笑ましい。取り外し式の壁で仕切ることができる落ち着いた空間を備えた多目的ホールでは、クラシックのコンサートや映画の上映会が開かれている。また、「ことば那珂川」のオフィスも1階にあり、レンタルスペースの受け付けや情報発信など、「ナカイチ」の活用に関する問い合わせ窓口として来客を迎える。

ホーホウ's eye

カフェ(つるり)、イベントスペース(自由に使える)、ワークスペース(席付)、飲食店(数ある)。「ナカイチ」にもある4つのスペースが揃うのが基本!



①「ナカイチ」のロゴが描かれたバナーが吊るされたバスの待合室。②「ナカイチ」の入り口。③カルチャーを発信する「ことばギャラリー」。④「ことば那珂川」のインフォメーション兼オフィス。⑤「ことば那珂川」のスタッフ。⑥JR西日本から乗り受けた新幹線の座席。⑦ロータリーから発車するバス。



4F

九州新幹線がそばを走る屋上庭園と、「博多南ナチュラルビアガーデン」で賑わう!

ガーデンフロア

GARDEN FLOOR

食材の多くは那珂川市内の生産者から仕入れ、地産地消を実践している「博多南ナチュラルビアガーデン」。地元野菜を中心としたメニューを食べることで、那珂川市での「暮らし」を体感することができる。夏は地元野菜を中心に、冬はお隣の糸島産の牡蠣が味わえるオイスターガーデンとして過年で営業している。「生産者から聞いた食べ方で調理して出したりすることも。素材の新鮮さが売りなので、あまり手を加えずに済ませようかっています」と代表の坂口祐也さん。「駅と直結しているので、博多で飲んでこないと「ナカイチ」で食べて、飲んでほしいです」と笑顔で呼びかけた。

ホーホウ's eye

2階でのイベント後の打ち上げから3階のシェアオフィスでの仕事後のちゅー一杯まで、すぐに乾杯できる場所。「ナカイチ」のみんなの「御用達」です。もちろん僕も!



①屋上にある開放的な「博多南ナチュラルビアガーデン」。②那珂川市産の食材を使ったメニューが充実。バーベキューも人気! ③店舗の暖簾。④オーブエキスに漬けただっさり唐揚げはビールにぴったり! ⑤代表の坂口さん(左)とスタッフの椿和倫さん(右)、田口麻さん(中)。



2F

「cafe Ruru」、キッズスペース、レンタルスペースや博多南駅前公園で交流を!

パークフロア

PARK FLOOR

レンタルスペースでは、ヨガや音楽、英会話教室などさまざまなイベントを開催。イベントのないときは、「cafe Ruru」の客、勉強やおしゃべりする中学生や高校生、買い物帰りの女性客が、奥のキッズスペースでは子連れのママやパパなど幅広い世代が思い思いの時間を過ごしている。また、地域づくりに関わりたい人がきっかけを持つのもカフェやイベントでの出会いから。「cafe Ruru」でアルバイトをしながら音楽活動を行う林田彩花さんは、「クジラ踊り」という「ナカイチ」が立地する地域の歴史を歌詞に込めた民謡を森重さんと制作。YouTubeでも見られる。

ホーホウ's eye

知り合いではないけど、「ここにいる人たち」といっしょで、笑顔を感じながら同じ時間を過ごすことで、安心感や、いつか一緒に何かするかもという予感が生まれやすくなります。



①「cafe Ruru」で「Ruru Art Jack」が開催され、ダンボール作品を展示。②ヒノキの床が心地いい。③子どもたちが設計した遊べる机。④ペルー語で「農作」を意味する「cafe Ruru」。アルバイトが活躍している。右が林田さんと、小学生に人気のフレンチトースト。3人で100円ずつ出し合っただけで注文するとか。⑤公園で遊ぶ子どもたち。⑥似顔絵作家も出張。⑦「Ruru Art Jack」に参加したアーティスト・岡村しんしんさん(右)とご家族。

「ナカイチ」の
キーパーソン・三人が語る、

「人が集まっている
場所づくり」論。

1万人から5万人へ、
人口増加するまちの場所づくり。

「ナカイチ」の事業を運営する「ホーホウ」代表取締役の木藤さんは福岡市生まれで、大学生の頃から那珂川市（当時は町）で暮らしている。宮崎県日南市に公衆で選ばれて4年間、油津商店街の再生事業に携わり、その手腕を買われて「ナカイチ」の運営に参画することになった。「日南市・那珂川市の人口はほぼ同じで約5万人。ただ、日南市は約9万人から減少して約5万人になり、那珂川市は約1万人から増加して約5万人になっており、その過程がまったく違います」と木藤さんは言う。那珂川市には転勤や戸建て住宅の建築による移住者が多く、仕事や生活面で福岡市への依存度も高いため、地元で地域づくりに対して受け身になる住民が多いと木藤さんが感じていたのも、その違いか



●木藤さんの会社「バトンタッチ」が前・オーカーから事業承継した喫茶店「キャブデン」。●那珂川市は人口が増え、成長しているから、まちがすぐに更新されています。だから、外観もそのまま残して営業しています」と木藤さん。●たっふりのホイップクリームが人気のウィンナコーヒー。●前・マスターから引き継いだナポリタン。

らくるものかもしれない。そこで、「ナカイチ」の事業において、博多南駅の一日の乗降客約1万5000人を対象とするのではなく、「ナカイチ」に何らかの目的を持って集まる人々を対象にしようと考えた。「ラジオ放送や「Tide Running」の事業もそうですが、イベントやワークショップなどを自分たちで企画・運営する人だちを増やしたいです。主体的に関わることで、「ナカイチ」が普通の駅前ビルとは違う、自分こ

のビルでもあるんだという意識を持ってくださったという思いです」と呼びかける。他方、坂口さんは以前から、「夜会」という勉強＆交流会の幹事を務め、プレイヤーのネットワークを築きながら、「ナカイチ」にどんな機能が必要かとニーズを掘り起こしてきた。そのなかで、人が集まる場づくりに大切なのは、「そこが誰かのものにならないようにつくること」と話す。「軸を一本に決めず、できるだけ多くの

「ナカイチ」2階の外に広がる博多南駅前公園でくつろぐ3人。右から、木藤さん・坂口さん・森藤さん。

主体的に関わることで、「ナカイチ」が普通の駅前ビルとは違う、自分こ意識を持ってもらえたら。（木藤）

決まった誰かの場になるのではなく、多様な価値観を持つ人が気軽に入って来られる場になるように。（坂口）

違う価値観のまま認め合える状況に。つながるばかりでは、ユニークな発想は生まれません。（森藤）



1階の多目的ホール、2階のイベントスペース、博多南駅前公園、4階の「博多南ナチュラルビアガーデン/オイスターガーデン」など、多彩なイベントが開催され、人が集まり、交流が生まれている。

けでなく、那珂川市に興味を持つ市外・県外の人も大歓迎。ぜひ、遊びに来てください。「ナカイチ」が関係先内所となつて、まちへの思いを実現するためのチームを結成することも可能だ。今後の「ナカイチ」の展開に期待したい。

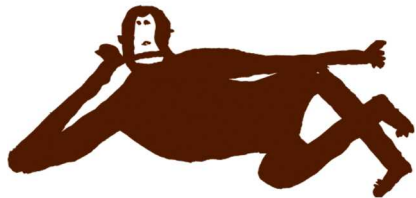
「ホーホウ」代表取締役・木藤太さんの
人が集まる場づくりの3つのポイント

- 「看板を外し、また、掛け直す。」
「駅前ビルはこうあるべき」という看板を外し、自由な発想で場づくりを実施。その後、看板を掛け直せば新しい駅前ビルが生まれる。
- 場の空気感を大事にする。
集まっている人の動きや会話などに沿って部屋の空気は変わる。この際の活動によって生まれる空気感を大事にすること。
- たかがハード、されどハード。
板張り、床、壁面のカラー、照明の当たり方、窓からの風量、音響設備を含め、ハードが持つ力は大きい。デザインにも力を入れた。

- 自分たちの手で、自主的に何かをつくり出す楽しさを体験できるようになった。
- 自分たちの手で、自主的に何かをつくり出す楽しさを体験できるようになった。
- 人が集まって生まれたこと、変わったこと。

中村周さんと『ビルトザリガニ』 と、宇都宮”愛”

ゴミ、捨てんなよ!

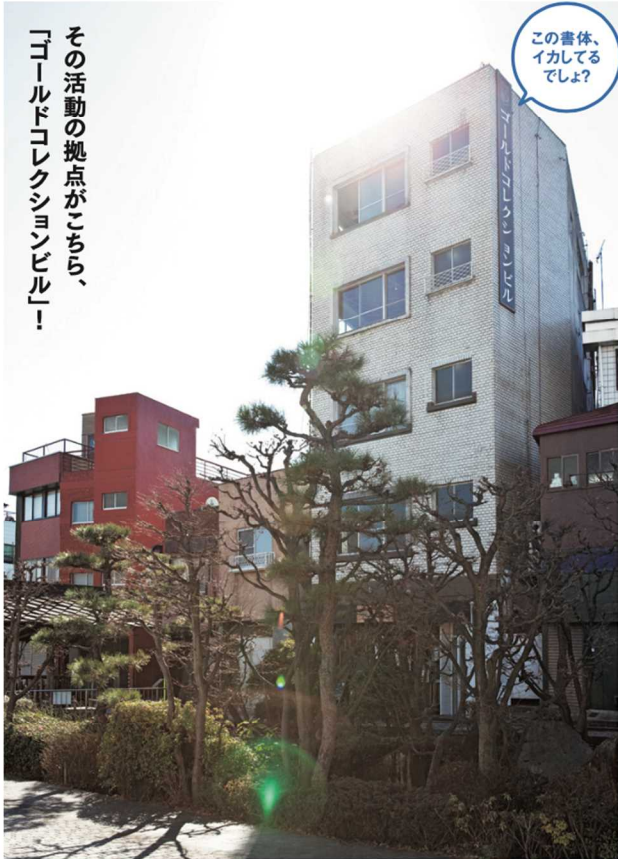




若き建築家の
中村さんは、関係人口です。

東京から
宇都宮に
通ってます!

この書体、
イカしてる
でしょ?



釜川沿いに立つ「ゴールドコレクションビル」。宝石店が入っていたときにそのビル名に。

学生時代を過ごした“第二の故郷”で。 中村周さんと 『ビルトザリガニ』と、宇都宮“愛”。

学生時代の研究フィールドとして住み始めた宇都宮市の釜川エリア。その魅力にどっぷりとはまってしまった建築家の中村周さんは、東京で就職してからも関係人口として釜川エリアに足繁く通い、今は「ゴールドコレクションビル」を拠点に活動を展開しています!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

その活動の拠点がごちら、
「ゴールドコレクションビル」!

関係人口として、
2歩目の階段を上る。

栃木県宇都宮市の中心市街地を斜めに横断するように流れる釜川。その周辺には、空き家をリノベーションしたい感じの飲食店やビクトショップが点在、クリエイティブな若者たちが集まるエリアとして注目されている。

そんな釜川エリアの賑わいをつくってきた一人が、「ビルトザリガニ」代表の中村周さんだ。東京都出身で、宇都宮大学大学院で空き家・空き地を研究し、そのフィールドとして釜川エリアを選び、空きバロックをリノベーションして「KAMIGAWA POCKET」と名づけ、イベントやワークショップを実施。東京で就職後も週末に

通い、釜川エリアを盛り上げ、地域住民との関わりを深めてきた。それが中村さんの関係人口としての1歩目の階段だとすると、「ゴールドコレクションビル」は2歩目になる。釜川沿いにある築50年のビルをリノベーションし、カルチャーの拠点をつくろうというプロジェクトだ。元々ビルの2階は、鹿沼市出身の建築家・佐藤

貴洋さんが事務所兼住居として使い、2階から上の階の管理をオーナーから任されていたが、「3階から5階が廃棄みたいで寂しいから」と中村さんに声をかけ、宇都宮市出身の建築家・城生、葉さんも巻き込んで、三人で「ビルトザリガニ」まっくり合同会社を立ち上げ、2階以上を借りて、少しずつリノベーションを進めている。

「ビルトザリガニ」代表・
中村 周さんにお話を聞きました。

関係人口にあって、
得たことは?

メンバー“越し”の
仲間に出会えた。

「ビルトザリガニ」のメンバーの佐藤さん“越し”の仲間や、城生さん“越し”の仲間に出会えたことで、プロジェクトがよりおもしろく発展しています。

カオスとアートとローカルがいっぱい!



1	2	3
4	5	6
8	9	10
12	13	14

1.4階のシェアオフィスにある貸会議室。1時間1000円。2.会議室では宇都宮のアーティストがつくったZINEも販売。3.壁には強の絵が。4.4階のシェアオフィスには個別ブースが5区画あり、クリエイターが借りている。5.4階のキッチンにも「ゴールドコレクション」のときに壁に描かれた絵が残る。6.「シェアオフィス」のレーザーカッターでつくったロゴ。7.廃墟状態の5階。この部屋は、週末に仲間が泊まれるゲストルームにリノベーションしようとしている。8.5階の廊から

は中心市街が一望でき、眺めは最高。9.3階は佐藤さんの住まい。10.佐藤さんの住まいはこんな感じ。仕事は4階のシェアオフィスで行う。11.「ビルトザリガニ」のメンバー。右から、中村さん、城生さん、佐藤さん。12.2階の「珈琲屋とモノ屋 satori」は2つの店が同居。こちらはモノ屋。中村さんの友達の家を展示会場。13.こちらは珈琲屋。予約必須のスイーツが人気。14.2019年4階で行われた「カマガワ クリエイティブスクール」の様子。

です」と中村さんが笑うように「絶賛」リノベーションが、しばらくは廃墟の雰囲気を残したままイベントスペースやスタジオとして貸し出すことにするようだ。また、宇都宮には工業団地があり、大手製造会社の研究開発センターや工場に多くのエンジニアが勤めている。なかには「休日も何かつくりたい」というものづくりのオタクもいて、「シェアガレッジ」というコミュニティをつくり、4階のシェアオフィスの1区画を借りて3Dプリンターやレーザーカッターを置いてものづくりを行い、オフ会やワークショップを開催している。「思う存分、ものをつくられる居場所ができてうれしいです」。他社のエンジニアとの交流が生まれ、刺激合っています。ワークショップを開き、地域の子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えていきます」とメンバーたちは笑顔で話す。宇都宮大学の学生たちが主体となつて釜川エリアの未来を考える「KAMAGAWA DESIGN CLASS」と開催し「景観形成重点地区」の指定を目指す釜川エリアのビジョンブックをつくるようとしている。「そんな、多様な人たちがそれぞれの目的や、温度感」で「ビルトザリガニ」と関わること、釜川エリアの関係人口を増やし、魅力ある地域にしていきたいです」と、中村さんは釜川エリアの未来を見据える。

「協賛も、より多くの方に関わってほしい」と口2000円に設定し、釜川エリアや宇都宮で募り出した「と中村さん」のビルトザリガニのメンバーは、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの学生たちが、「壊すこともつくること」という、言葉業のものと、室内の解体を行った。今、2階は「珈琲屋とモノ屋 satori」、3階は佐藤さんの住まい、4階はシェアオフィス、5階は「まだ廃墟

「ビルトザリガニ」代表、中村 周さんに聞きました。

関係人口になるコツは？

住民票を移すこともコツの一つ。

2拠点居住で移住してなくても、住民票を移せば地域の人からの信用度は大きくアップするはず。僕はまだ移していません。



仲間の稲越誠さんと4階のシェアオフィスで、クリエイターがワークショップを行う「カマガワ クリエイティブスクール」の打ち合わせ。

多様なクリエイターがビルに集まり、まちへの関わりを深めています。

ザリガニのように、いざりながら前進を!

「ビルトザリガニ」とは、中村さんたち三人が設立した合同会社の名前であり、クリエイターや地域の人たちが自由に出入りできるプラットフォームでもあり、そこから立ち上がるプロジェクトの総称でもある。中村さんが代表を務める「釜川から育む会」が釜川の生物調査を行った際、源流近くにたくさんいたアメリカザリガニを捕まえて、みんなでパーベキューをして食べたことがきっかけでその名がついた。「ザリガニの語源は「いざり」という通も、「いざり」とは後ろ向きに進むこと。宇都宮の中心部も人口減少や若者の流出で経済は停滞気味。まさに「いざり、まち。でも後ろ向き」の時代だからこそ空き家が生まれ、新しいまちづくりのチャンスがあるわけです。いざりながらもビルを構築(ビルト)し、前進する。そんなイメージを共有したいです」と「ビルトザリガニ」に込めた思いを語った。



上/「ビルトザリガニ」のロゴ。下/エアコンの通気孔にとんかつ屋時代のメニュー板が。

ビルのリノベーションが始まった2018年、中村さんたちの思いに共感した栃木県宇都宮にゆかりのあるアーティストやデザイナー、一般の人たち4組が、リノベーション前に開催した「ゴールドコレクション」展に出席。ビルの壁に絵を描いたり、釜川沿いに作品を展示したり、ユニークな空間が2週間にわたって出現した。



遊びに来てね!

記者の目

関係人口の現場取材して、

中村さんのように地方で仕事を兼業する場合にネックとなるのが、交通費。東京一都府県の在籍住民は1日約4000円で、毎週1回なら月に約1万6000円。それを、政府が支援する制度が始まるか。関係人口の皆さんには朗報ですね!

「ここ、何ですか?」と、「コミュニティションを誘発。」
 大学院を出て4年。中村さんは東京の有名建築事務所でビジュアルプロジェクトを担当しながら、休日は釜川エリアや宇都宮市の関係人口になり、複業として仲間とエリアづくりを励んでいる。「最近の建築家は特定のフィールドに関心を持っていきます。僕は若くして釜川というフィールドに飛び込み、一足飛びで経験を積ませてもらっ

釜川沿いから宇都宮の魅力を発信し、新しい仲間とつながろう!



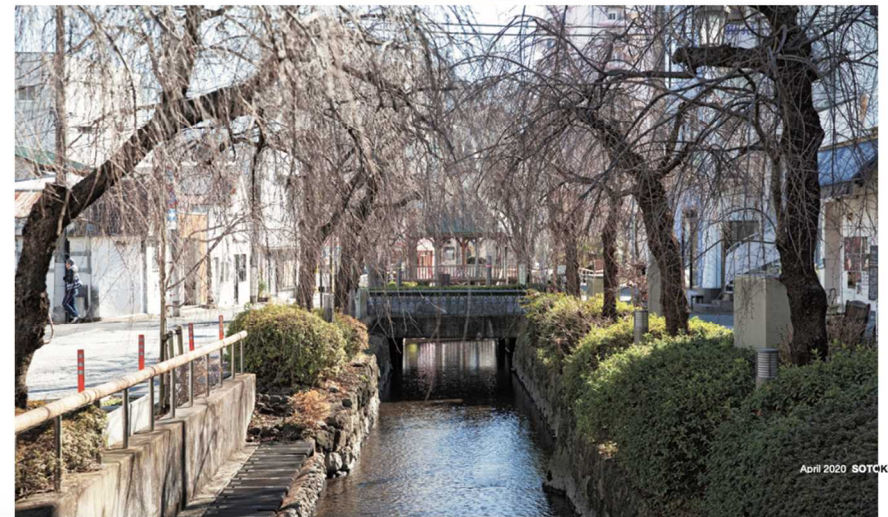
上/「シェアガレージ」の江口真さん、福田浩介さん、相原康太郎さん(右から)。下/4階でものづくりのワークショップも開催。



上/釜川沿いの「KAMAGAWA POCKET」で仲間と談笑。右下/アトリエ業イベントスペース兼住居として中村さんが2013年にリノベーション。左下/テラスには誰でも自由に本を手にとっている「かまがわ文庫」が。



右/「釜川から育む会」で実施した釜川の環境調査。生き物や水質を子どもたちと一緒に調べた。左/「釜川から育む会」で活動する稲越さんは埼玉県から通う関係人口。下/憩いの場として愛される釜川。



関係人口と連携・協働した 地域づくりの視点

1. 関係案内所と関係案内人
2. 老舗メディアとの連携
3. U字効果

ご清聴
ありがとうございました。
最新号は好評発売中！
特集「続・SDGs入門」

ソーシャル&エコ・マガジン 持続可能な未来をつくるための目標！「SDGs」の大特集！

ソトコト

大好評！
ソトコトOnline
sotokoto-online.jp
アクセスは
こちらから

【保存版】

誰ひとり取り残さない、
社会のつくり方！

続・
SDGs入門

Introduction to SDGs 2

私たちができる
SDGs
Q&A

No.252
June 2020
SOTOKOTO
1019YEN

ソトコト編集部 代表取締役 佐藤 浩一

ソーシャル&エコ・マガジン

未来をつくる仲間が増えています!

ソトコト

ありがとう20周年!!

20祝



ゴミ、捨てんなよ!



ゴミ、捨てんなよ!

